

横浜市教育委員会  
定例会会議録

- 1 日 時 平成25年8月9日（金）午後2時00分
- 2 場 所 教育委員会会議室
- 3 出席委員 今田委員長 奥山委員 間野委員 坂本委員 西川委員 岡田委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

# 教育委員会定例会議事日程

平成25年8月9日（金）午後2時00分

- 1 会議録の承認
- 2 教育長一般報告・その他報告事項
- 3 要望等審査  
受理番号5 不服申立て及び訴訟等に関する要請書  
受理番号6 教科書に関する請願書
- 4 審議案件  
教委第27号議案 特別支援学校及び小・中学校個別支援学級用教科書並びに  
高等学校用教科書の採択について
- 5 報告案件  
教委報第3号 教育委員会事務局職員の人事に関する臨時代理報告について
- 6 その他

[開会時刻：午後 2 時 00 分]

～傍聴人入室～

今田委員長 ただいまから、教育委員会定例会を開会いたします。  
まず、事務局から報告をお願いします。

伊東総務課長 本日は急施を要する案件として受理番号 7、教科書に関する要請書についての  
審査もお願いいたします。

今田委員長 それでは、横浜市教育委員会会議規則第 1 条の 2、第 2 項に基づく急施を要す  
る案件として、後ほど、要望等審査の中で審査を行います。  
次に会議録の承認ですが、7 月 12 日の会議録署名者は坂本委員と私です。会議  
録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き、承  
認してよろしいでしょうか。

各委員 <了 承>

今田委員長 それでは、承認いたします。字句の訂正がございましたら、後ほど事務局まで  
お伝えください。  
なお、前回 7 月 26 日の会議録については、準備中のため、次回以降に承認する  
ことといたします。  
次に、議事日程に従い、教育長から一般報告をお願いいたします。

岡田教育長 【教育長一般報告】

#### 1 市教委関係

##### (1) 主な会議等

- 7 / 29 ~ 8 / 2 教職員初任者研修
- 7 / 31 横浜高校野球部による市長表敬訪問
- 7 / 31 食育シンポジウム 2013
- 8 / 8 ~ 10 平成 25 年度第 37 回東中学校水泳競技大会

それでは、市教委関係の主な会議等についてご報告いたします。

7 月 29 日から 8 月 2 日まで、教職員の初任者研修を道志村で開催いたしました。  
7 月 29 日から 4 グループに分かれて出発し、それぞれ 1 泊 2 日の宿泊研修を  
行いました。私は 30 日の北部のグループのバスに乗って道志村へ向かいまして、  
村長さんにお会いし、受け入れの願いをしまりました。

7 月 31 日は横浜高校野球部による市長表敬がございまして、私も同席をいたし  
ました。

同じく 7 月 31 日、食育シンポジウムを関内ホールで開催いたしまして、食育実  
践推進校になっております学校の代表として 4 名の教員がそれぞれパネルディス  
カッションを行いました。その後、帝京大学の殖田友子先生から「頭で食べて強  
くなる」という題名で食育の基調講演がありました。

8 月 8 日から 10 日までの間、平成 25 年度第 37 回関東中学校水泳競技大会が、  
横浜国際プールで開催されておまして、8 日の開会式では私がお挨拶をさせて

いただきました。  
報告事項は以上です。

今田委員長 教育長から報告が終了しましたが、何かご質問等ございますか。よろしいですか。

私から1つだけよろしいでしょうか。この関東中学校水泳競技大会の参加者は何人ぐらいですか。

岡田教育長 それぞれの県で150人位で、神奈川県では350人の参加でしたから、保護者や先生方入れまして、総勢3,000人ぐらいいらっしゃいました。

今田委員長 そうですか、分かりました。  
それでは、ご質問等がなければ、議事日程に従い、要望等審査に移ります。  
まず、会議の非公開についてお諮りします。受理番号5の要請書につきまして、訴訟に関する案件のため、非公開としてよろしいでしょうか。

各委員 <了 承>

今田委員長 それでは、受理番号5の要請書の審査は非公開として、後ほど審査をいたします。  
受理番号6の請願書について審査を行います。所管課から説明をお願いします。

入内嶋指導部長 指導部長入内嶋でございます。受理番号6につきまして、担当の指導主事室長から説明させていただきます。

吉原指導主事室長 指導主事室長、吉原でございます。受理番号6につきまして考え方をご説明申し上げます。  
受理番号6番は、横浜市教育委員会により行われた横浜市立学校使用教科書の採択の手續に関する請願及び陳情に関する内容であり、教育長に専決させる請願及び陳情と判断されます。  
以上でございます。

今田委員長 所管課から説明が終わりましたが、何かご質問等ございますか。  
それでは、特にご意見等がなければ、受理番号6は教育長専決としてよろしいでしょうか。

各委員 <了 承>

今田委員長 では、受理番号6については、教育長専決で回答するとともに、報告をお願いします。  
次に、先ほど事務局から追加がありました受理番号7の要請書について、審査を行います。所管課から説明をお願いします。

吉原指導主事室長 受理番号7につきまして、考え方をご説明申し上げます。  
受理番号7番は、横浜市教育委員会により行われた横浜市立学校使用教科書の採択の手續に関する請願及び陳情に関する内容であり、教育長に専決させる請願

及び陳情と判断されます。

以上でございます。

今田委員長

所管課から説明が終わりましたが、何かご質問等ございますか。

特にご意見等がなければ、受理番号7は教育長専決としてよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

今田委員長

では、受理番号7については、教育長専決で回答するとともに、報告をお願いします。

次に、議事日程に従い、審議案件に移ります。教委第27号議案「特別支援学校及び小・中学校個別支援学級用教科書並びに高等学校用教科書の採択について」審議を行います。

本日の教科書の採択に係る審議資料につきましては、これまでと同様、採択終了後に公表することといたします。

まず初めに、所管課から全体に係る説明をお願いします。

入内嶋指導部長

指導部長、入内嶋でございます。それではよろしくお願ひいたします。

お手元にファイルがございます。少し大きくて申し訳ございませんが、ファイルの中のインデックス1をお開きいただきたいと思います。

教委第27号議案「特別支援学校及び小・中学校個別支援学級用教科書並びに高等学校用教科書の採択について」ご説明いたします。裏面をご覧ください。2ページでございます。これは、平成26年度に特別支援学校及び小・中学校個別支援学級並びに高等学校、南高等学校において使用する教科書を採択することについてご提案させていただくものでございます。

お隣、3ページをご覧ください。採択をいたします教科書は、(1)から(3)でございます。(1)平成26年度に横浜市立の特別支援学校及び小・中学校個別支援学級において使用する教科書、(2)高等学校において使用する教科書、(3)中高一貫教育校である南高等学校において使用する教科書でございます。

なお、南高等学校用教科書につきましては、南高等学校附属中学校において、南高等学校の学習内容を一部移行して実施する際に使用する教科書も含まれます。

次に、1枚おめくりください。資料をご説明申し上げます。右上に囲みで資料1と書かれております。この5ページから8ページまででございますけれど、5月7日の教育委員会で決定いたしました平成25年度横浜市教科書採択の基本方針でございます。

さらに、右側の9ページでございますが、ここには資料2として教科書採択手順、1枚おめくりいただきますと、右側に資料3といたしまして、11ページになりますが、横浜市教科書取扱審議会条例を添付してございます。ここまでの資料は、本日、傍聴されている方々にもお配りさせていただいております。

次に、インデックス2番から4番まででございます。2、3、4、これが採択に関する資料となっております。後ほど、詳しくご説明申し上げます。

続きまして、インデックス5番から8番まででございます。5、6、7、8とございます。こちらは横浜市立学校の教科書の取扱いについて、答申でございます。

なお、これらの資料の中で、採択や答申に関する資料につきましては、採択終

了まで非公開となっております。

次に、今申し上げました答申に至るまでの教科書取扱審議会及びその後の経過についてご説明いたします。恐れ入ります。インデックス1番にお戻りいただきまして、5ページをお開きください。

ここにございますように、教育委員会では、採択にあたり、平成25年5月7日、平成25年度横浜市教科書採択の基本方針を決定いたしました。基本方針を1枚おめくりいただきまして、右側の7ページの4番をご覧ください。

「4 採択の流れ」(1)に示してあるとおり、教育委員会は、横浜市教科書取扱審議会条例に基づいて横浜市教科書取扱審議会を設置し、教科書採択の基本方針に基づいて、必要な事項の調査、審議を行うよう、平成25年5月23日に教科書取扱審議会に諮問をいたしました。

続きまして、教科書取扱審議会の審議経過についてご報告申し上げます。1枚おめくりいただきまして、資料2の教科書採択手順をご覧ください。

特に下の段にあります表をご覧ください。

この教育委員会の諮問を受けまして、審議会は5月23日、7月4日、7月11日の計3回開催されました。そして、表の③、④、⑤、それから⑦、⑧にそれが該当いたします。なお、この間、審議会では表の④と⑤に関わりますけれど、専門かつ綿密な調査研究を行うために、教員及び指導主事からなる教科書調査員を任命し、教科書調査員報告書を作成いたしました。

また、表の⑤でございますけれど、ここにございますとおり、特別支援学校及び小・中学校個別支援学級並びに高等学校、南高等学校につきましては、児童生徒一人一人の学習実態や学校ごとの教科、科目の開設状況が異なることから、各学校長に教科用図書意見報告書の提出を依頼いたしました。

審議会では、これらの資料や教科書見本本、文部科学省が公開している教科書編集趣意書などの資料に基づいて、先ほど申し上げました3回の審議会で慎重に研究、協議を行ってまいりました。その結果として、表の⑦、⑧をご覧ください。特別支援学校及び小・中学校個別支援学級につきましては、各学校の教育課程のもとで、児童生徒一人ひとりの障害の状態、学習状況、興味・関心等を踏まえ、かつ児童生徒の個別の教育支援計画及び個別の指導計画に沿って、教科等の目標の実現を図ることができる教科書を答申としてまとめました。

また、高等学校及び南高等学校につきましては、横浜市立高等学校教育振興プログラムに示されました各校の使命、教育理念、生徒の進路状況等を踏まえ、かつ、各高校の各教科、科目の目標の実現を図ることができる教科書を答申としてまとめました。

そして、7月11日開催の第3回の審議会で答申が決定されました。

今田委員長

ちょっと説明中にすみません。今、この9ページの資料2で話してくれていると思いますが、これは、採択手順として時期が書いてあるんですけども、具体的な日にちが書いてありません。採択について「こういうふうに示してやっていきますよ」というように、最初に説明するという意味ではそれはいいかも分からないけれども、今までやってきた分の実績は、やはりこういう資料にもきちんと日にちは入れておかないといけないと思います。それは採択をする我々に対して大変失礼な話だと思います。この資料はやり方の話であって、具体的にやってきた実績について示すものだと思いますが「この日にこういう格好でやりましたよ」とか、「これはいつ、こういうふうに、この日にやりましたよ」といったことはやはり日にちが入らないと、きちんとした説明にならないと思います。

入内嶋指導部長	はい、申し訳ございません。
今田委員長	それは、何と云うか、きちんと適正な審議をしたということの証を明確にするためにも必要な話ではないでしょうか。今日はもう仕方ないので、こちらが書くのはやぶさかではないけれども、普通、こういうものをやるときは、これが予定の手順であって、実績には「こうしました」という格好で示していくのが正しいやり方だと思います。教育長、このことについては、私も気にしていたのだから、それなりに連絡を取って進行をする上で誤解のないようにきちんとやってください。やはりまずいと思います。図表の③、④のところについて、もう一度ちゃんと説明してください。
入内嶋指導部長	はい、申し訳ございません。第1回の審議会が5月23日でございます。第2回が⑦、⑧のところになりますけど、7月4日でございます。第3回が7月11日でございます。そして、7月18日に教育長に答申を手交し、教育委員会に提出いたしました。大変失礼いたしました。今申しました審議会の日程で答申、そして手交という流れでございます。 それ以降、本日まで、各教育委員の皆様におかれましては、関係法令、文部科学省及び神奈川県教育委員会の通知、学習指導要領、横浜版学習指導要領、横浜市立高校版学習指導要領、教科書編集趣意書、教科書見本本による教科書調査、答申の説明などを受けまして、教科書研究を進めていただいているところでございます。 大変申し訳ございませんでした。以上でございます。
今田委員長	ただいまの説明について、ご質問等ございましたら、どうぞ。 よろしいですか。それでは、引き続き「特別支援学校及び小・中学校個別支援学級用教科書」「高等学校用教科書」「南高等学校用教科書」の順で説明をお願いいたします。
入内嶋指導部長	では、最初に、今申しました審議会の答申につきまして、指導主事室長からご説明申し上げます。
吉原指導主事室長	指導主事室長、吉原でございます。まず、特別支援学校及び小・中学校個別支援学級用教科書の答申についてご説明いたします。 インデックスの6番をお開きいただけますでしょうか。平成26年度使用特別支援学校及び小・中学校個別支援学級用教科書答申をご覧ください。表紙を1枚、おめくりください。こちらに答申する教科書と答申理由が記載されております。答申する教科書は別紙一覧のとおりとなっております。答申理由につきましては、記載のとおりでございます。なお、別紙一覧はそのページを1枚おめくりいただいたところから学校種別、障害種別ごとにまとめて記載しております。 特別支援学校及び小・中学校個別支援学級用教科書の答申については以上でございます。 次に、高等学校用教科書答申についてご説明申し上げます。インデックスの7番をお開きください。平成26年度使用高等学校用教科書答申をご覧ください。表紙を1枚おめくりいただきますと、答申する教科書と答申理由が記載されております。答申する教科書は、別紙一覧のとおりとなっております。答申理由につきましては、記載のとおりでございます。なお、別紙一覧はそのページを1枚おめ

くりいただいたところから、教科、種目ごとにまとめて記載しております。

続きまして、南高等学校用教科書についてご説明申し上げます。インデックスの8番をお開きください。平成26年度使用南高等学校用教科書答申をご覧ください。表紙を1枚おめくりいただきますと、答申する教科書と答申理由が記載されております。答申する教科書は別紙一覧のとおりとなっております。答申理由及び別紙一覧につきましては、高等学校用教科書と同様に記載がございます。

高等学校用教科書及び南高等学校用教科書の答申については以上でございます。

今田委員長

答申について説明が終了しました。皆さん、それぞれ勉強もされてきていると思いますけれども、答申について、改めて何か確認をしていただければ、どうぞ。

これは前回のときも少しお話を申し上げたかもしれませんが、特別支援学校と、それから小・中学校の個別支援学級の場合は、児童生徒の一人ひとりの学習実態に合った教科書や一般図書を、それから高等学校、南高等学校については、各学校の教科、科目の開設状況が異なるため、数多くの教科書・一般図書を採択することになるわけですね。

それでは、事務局に特別支援学校及び小・中学校個別支援学級、それから高等学校、南高等学校の平成26年度使用教科書についての案の説明をお願いしたいと思います。

吉原指導主事  
室長

それでは、特別支援学校及び小・中学校個別支援学級用教科書（案）について、ご説明いたします。

インデックスの2番をお開きください。平成26年度使用特別支援学校及び小・中学校個別支援学級教科書（案）をご覧ください。

表紙を1枚おめくりください。採択する教科書の欄にあります別紙一覧のとおり、採択することをご提案いたします。なお、別紙一覧は、そのページを1枚おめくりいただいたところから記載しております。

前のページにお戻りいただけますでしょうか。採択理由（案）を読み上げさせていただきます。

本市の各特別支援学校及び個別支援学級設置小学校・中学校では、児童生徒の障害の状態が異なっているため、「平成25年度横浜市教科書採択の基本方針」に基づき、各学校の教育課程や年間指導計画、児童生徒一人ひとりの「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」に即して、最も適切である教科書について、各学校長に対して意見の報告を求めた。

横浜市教科書取扱審議会では、この各学校長より提出された「教科用図書意見報告書」を尊重しつつ、その内容を教科書目録に登載されている教科書及び一般図書について調査・研究した「教科書調査員報告書」とあわせて慎重に審議し、「平成26年度使用特別支援学校及び小・中学校個別支援学級使用教科書答申」としてまとめ、教育委員会に提出した。

教育委員会では、この答申をもとに児童生徒の障害の状態、学習状況、興味・関心の観点から、さきの「教科用図書意見報告書」を参考にしつつ、慎重に審議した。

その結果、各特別支援学校及び個別支援学級設置小学校・中学校が、その教育課程のもとで、児童生徒の障害の状態、学習状況、興味・関心等を踏まえ、かつ、各児童生徒の「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」に沿って、教科等の目標の実現を図ることができる教科書として、適切であると認められたた



め、別紙一覧のとおり、平成26年度に使用する教科書を採択するものである。

以上でございます。

1枚おめくりくださいますでしょうか。そこに採択する教科書が一覧となっております。1ページ「I 特別支援学校（視覚障害）」の「1 小学部」から検定済教科書。もう1枚めくっていただきまして、文部科学省著作教科書、一般図書、拡大教科書、点字教科書につきまして発行者番号、発行者略称、教科書の記号・番号、書名等が記載されています。

以下、3ページから「2 中学部」。2枚おめくりいただきまして、6ページから「3 高等部」と記載してあります。

続きまして、14ページをご覧ください。ここからは「II 特別支援学校（聴覚障害）」について、小学部から順に、中学部、高等部と続きます。

さらに、2ページおめくりいただきまして18ページをお願いいたします。こちらには特別支援学校（知的障害）、もう1枚おめくりいただきまして、21ページに特別支援学校（肢体不自由）。2ページめくっていただきまして、24ページの特別支援学校（病弱）と、障害の種別ごとに記載してあります。

26ページをお開きください。ここからは「VI 個別支援学級」の記載があります。26ページに知的障害、27ページに自閉症・情緒障害、さらに弱視の順に記載してあります。

28ページに続きまして、「一般図書一覧」とあり、それを1枚おめくりいただきますと、今年度より、教育委員会事務局が新たに作成し各学校に示した「教科用図書選定参考一覧」に記載のある図書の発行者名や書名などが、数ページにわたり459種類記載してあります。

さらに、おめくりいただいて14ページ、お開きください。14ページ以降には、「教科用図書選定参考一覧」に記載のない図書が334種類記載してあります。この一覧では、あわせて793種類の一般図書が挙げられております。

特別支援学校及び小・中学校個別支援学級用教科書（案）につきましては以上でございます。

今田委員長

少し長くなりましたけども、所管課から説明が終わりました。各委員からのご意見、ご質問等がございましたらどうぞ。

ございませんか。それでは、私から1つ申し上げます。

特別支援学校や個別支援学級を対象とした、俗に言う、熱心な教科書会社というのは、例えば、視覚障害の場合、ライトハウス出版のようなところがありますが、障害の分野に応じて、やはりこの部分に得意なところとそうでないところというのがあるのでしょうか。極めて素朴な質問なのですが、「このジャンルには秀でている」とかいうものはありますか。

入内嶋指導部長

特別支援教育担当の課長からご案内します。

吉原特別支援教育課長

どうぞよろしく申し上げます。それぞれ対応した教科書をつくっているところというのは、やはりそれぞれに応じて強いところがあります。

今田委員長

私が聞いたのは、例えば視覚障害に強いところ、聴覚障害に強いところということで、それぞれ、その障害の部門によって、得意な会社というのがあるんですか、ということです。

吉原特別支援教育課長	視覚障害ですと拡大教科書、障害に合ったものという、例えば知的障害用の算数などの教科書もあります。
今田委員長	聞きたかったのは、一般の検定教科書をつくっている会社とはまた違う、専門の会社がつくっているのかどうかということです。
吉原特別支援教育課長	そうですね、見やすい工夫をすとか、点字の教科書などにつきまして独自の特色で秀でている会社はあります。
今田委員長	他にご質問はよろしいですか。それでは、ご質問等がなければ、特別支援学校及び小・中学校個別支援学級用教科書については、原案のとおり承認してよろしいでしょうか。
各委員	＜了 承＞
今田委員長	<p>それでは、特別支援学校及び小・中学校個別支援学級用教科書については、原案のとおり採択いたします。</p> <p>次に、高等学校用教科書及び南高等学校用教科書（案）について、所管課から説明をお願いいたします。</p>
吉原指導主事室長	<p>高等学校用教科書（案）についてご説明いたします。少し長くなりますが、よろしくをお願いいたします。</p> <p>インデックスの3番、平成26年度使用高等学校用教科書（案）をご覧ください。表紙を1枚、おめくりください。採択する教科書の欄にあります別紙一覧のとおり、採択することをご提案いたします。なお、別紙一覧はもう1枚おめくりいただいたところから記載してございます。</p> <p>前のページにお戻りいただきまして、採択理由（案）を読み上げさせていただきます。</p> <p>本市の各高等学校は、平成23年3月に策定された「横浜市立高等学校教育振興プログラム」に基づき、特色ある学校づくりに取り組んでいる。特色ある学校づくりのために、各校にはさまざまな使命があり、その使命や教育目標を踏まえた教科書を選定する必要がある。「平成25年度横浜市教科書採択の基本方針」に基づき、各校にとって最も適切である教科書について、一般図書（高等学校用）も含めて、各校長に対して意見の報告を求めた。</p> <p>横浜市教科書取扱審議会では、各校長より選出された「教科用図書意見報告書」を尊重しつつ、その内容を教科書目録に登載されている教科書について調査・研究した「調査員報告書」とあわせて慎重に審議し、「平成26年度使用高等学校用教科書答申」としてまとめ、教育委員会に提出した。</p> <p>教育委員会では、この答申をもとに、「横浜市立高等学校教育振興プログラム」に示された各学校の使命、教育理念、生徒の進路状況等の概要、重視する取組の観点から、先の「教科用図書意見報告書」を参考にしつつ、慎重に審議した。</p> <p>その結果、各学校の特色に配慮し、各教科・科目の目標の実現を図ることができる教科書として最も適切であると認められたため、別紙一覧のとおり、平成26年度に使用する教科書として採択するものである。</p> <p>以上でございます。</p>

1枚おめくりください。こちらに採択する教科書が一覧となっておりますので、ご覧ください。左側から学校名、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号、書名、各学校の選定理由、教科書の特徴の項目がございます。学校名の欄に複数の学校が記載している場合は、それぞれの学校で同じ教科書を採択するという案でございます。

内容の説明をさせていただきます。

このページは国語総合の採択案となっております。各学校が挙げた選定理由と教科書調査員の報告にある教科書の特徴を検討し、採択案といたしました。例えば、1番目の東高校は、東京書籍の「精選国語総合」を挙げ、「基礎・基本の徹底を図ることができ、学習者の興味・関心を広げる可能性を含んだ教材が現代文・古文・漢文ともにとられていること。言語活動においても、小論文だけにとどまらず、PISA型読解力にも対応しており、幅広い学習ができること。図録などの参考資料も充実しており、学習を深める配慮がなされていること」を選定理由としています。

この教科書の特徴としては、「教材が質・量ともに精選され、基礎力の充実を図るとともに、基本的な国語力が高められる工夫と配慮がなされている。また、表現の学習が、独立した単元として設定されており、言語活動例も工夫されている」とあり、この教科書が、東高校の国語総合の目標の実現を図ることができる教科書として適切であるととらえ、採択案としています。

2番目、3番目の桜丘高校は、東京書籍の「国語総合現代文編」と「国語総合古典編」という分冊の教科書を挙げ、選定理由として、「さまざまな教材が充実しており、進学指導重点校として大学入試を見据えた学習指導をしていく上で指導しやすい編集がなされている」としています。

この教科書の特徴としては、「様々な分野の文章を教材化し、時代に即した作品が豊富に収録されている。発展的な内容を重視した編集である」とあり、この教科書が、桜丘高校の国語総合の目標の実現を図ることができる教科書として適切であるととらえ、採択案としています。

4番目の教育出版の「国語総合」につきましては、選定理由として、さまざまな教材がバランスよく配置されているという理由により、みなと総合高校、横浜総合高校の2校で目標の実現を図ることができる教科書として適切であるととらえ、採択案としております。

恐れ入ります。36ページをお開きください。

このページは数学Ⅰの採択案となっております。1番目の戸塚高校定時制は実教出版の「高校数学Ⅰ」を挙げ、その選定理由として、「例題や問題が、中学校時に学習した内容から振り返ることができるように作成されており、基礎学力の定着に適している」となっております。

この教科書の特徴としましては、「基礎・基本の徹底理解のため、中学の復習を取り入れるなどの工夫がなされている。数学を分かりやすく学習できるような工夫がしてある」とあり、この教科書が戸塚高校定時制の数学Ⅰの目標の実現を図ることができる教科書として適切であるととらえ、採択案としております。

2番目の横浜サイエンスフロンティア高校は、啓林館の「詳説数学Ⅰ」を挙げ、選定理由として、「分かりやすい例や説明から複雑に進んだ問題まで網羅的に取り扱い、数学の見方や考え方を理解し、数学の知恵と力を養えるように配慮されていること。研究として発展的な内容が多く扱われていること」などが挙げられております。

この教科書の特徴としましては、「数学の見方や考え方を理解し、数学の知恵と力を養えるよう編集してある。生徒が学習内容に興味・関心を持ち自発的・意

欲的な学習活動ができる配慮がしてある」とあり、横浜サイエンスフロンティア高校の数学Ⅰの目標の実現を図ることができる教科書として適切であるにとらえ、採択案としております。

3番目の数研出版の「数学Ⅰ」につきましては、選定理由として、「基礎・基本の定着に必要な内容から発展的な内容まで幅広く扱っていること」として金沢高校、東高校、戸塚高校の3校で目標の実現を図ることができる教科書として適切であるにとらえ、採択案としています。

国語総合と数学Ⅰの2種目につきまして説明をさせていただきましたが、他の教科、種目も同様に検討いたしまして、一覧としてまとめております。

後ろのほうになります。申し訳ございません。最後から3枚目をお開きください。109ページになります。109ページの一番上に記載がございますが、こちらには、高等学校用の一般図書をまとめております。高等学校においては、特に専門的な内容を学習するために、教科書目録に掲載のないものを一般図書として使用することができることになっています。左側から学校名、発行者の番号略称、書名、評価・科目のねらい、選定理由の項目がございます。

1番目に、来春開設する横浜商業高校スポーツマネジメント科で使用するスポーツ概論の教科書として、大修館が発行している「基礎から学ぶスポーツ概論」を採択案としています。選定理由といたしまして、「スポーツに関わる技能や体力を合理的に向上させるための最先端の科学的知識や具体的方法と、スポーツの歴史・背景・これからの施策など、本科で学ぶ内容を網羅している」ことを選定理由としております。

そのほか、横浜商業高校商業科、国際学科、みなと総合高校、横浜総合高校、戸塚高校定時制で使う一般図書を一覧にして採択案としております。

戻っていただきまして申し訳ございません。67ページをお開きください。高校の採択案の67ページでございます。こちらの一番下の欄をご覧ください。

来春開設する戸塚高校普通科音楽コースにつきましては、教科書目録に掲載されている検定済教科書の教育芸術社「高校生の音楽Ⅰ」を採択案としています。平成26年度使用高等学校用教科書の採択数は567種目、367種類となります。

続きまして、南高等学校用教科書（案）についてご説明申し上げます。インデックス4番をお開きください。

平成26年度使用南高等学校用教科書（案）をご覧ください。なお、これには南高等学校附属中学校使用教科書を含んでおります。表紙を1枚おめくりください。

採択する教科書の欄にあります別紙一覧のとおり、採択することをご提案いたします。なお、別紙一覧はもう1枚おめくりいただいたところから記載しております。

前のページにお戻りください。採択理由案を読み上げさせていただきます。

横浜市立南高等学校では、平成23年3月に策定された「横浜市立高等学校教育振興プログラム」に基づき、中高一貫教育校として、豊かな人間性と高い学力を育てるという使命があり、その使命や教育目標を踏まえた教科書を選定する必要がある。「平成25年度横浜市教科書採択の基本方針」に基づき、南高等学校にとって最も適切である教科書について一般図書（高等学校用）も含めて、学校長に対して意見の報告を求めた。

横浜市教科書取扱審議会では、学校長より提出された「教科用図書意見報告書」を尊重しつつ、その内容を教科書目録に登載されている教科書について調査・研究した「調査員報告書」と合わせて慎重に審議し、「平成26年度使用南高等学校用教科書答申」としてまとめ、教育委員会に提出した。

教育委員会では、この答申をもとに、「横浜市立高等学校教育振興プログラム」に示された南高等学校の使命、教育理念、生徒の進路状況等の概要、重視する取組の観点から、先の「教科用図書意見報告書」を参考にしつつ、慎重に審議した。その結果、学校の特色に配慮し、各教科・科目の目標の実現を図ることができる教科書として最も適切であると認められたため、別紙一覧のとおり、平成26年度に使用する教科書として採択するものである。

なお、国語総合、数学Ⅰ、数学A、コミュニケーション英語Ⅰの教科書については、南高等学校で使用するとともに、南高等学校附属中学校において、南高等学校の学習内容を一部移行して実施する際に使用する教科書として採択する。

以上でございます。

1枚おめくりください。こちらに採択する教科書が一覧となっております。そこには、左側から発行社の番号・略称、教科書の記号・番号、書名、南高等学校の選定理由、教科書の特徴が記載されております。一覧の1ページをご覧ください。

国語総合の上から1番目、2番目に第一学習社が分冊で発行している「高等学校新訂国語総合現代文編」、「高等学校新訂国語総合古典編」が記載されております。

選定理由として、「現代文編では、論理的思考力を育成する教材が適切に配列されていること。中学校での学習内容を踏まえており、自己表現力や言語活動が十分に行える表現教材も豊富であること。国公立大学受験の基礎力をつけるにも適していること」としております。

2番目の古典編の選定理由では、「古典編では、古典・漢文ともに、1年生に必要なジャンルの教材が適切に配列されており、古典導入期のテキストとして適切であること。附属中学3年生が使用した際にも、違和感なく自然に導入できること」などを選定理由としております。この教科書の特徴としましては、「基礎・基本を重視しているが、新鮮な視点を感じる教材が精選され、総合的な国語力の習得を考えた配列がなされていること。現代文とは別に章立てされた表現の実践が言語活動を通して総合的な国語力を伸ばせる編集になっていること。古文・漢文は難易度が学習時期に合わせた適切な配置になっており、初学者のために有効な編集になっていること」等があり、南高等学校の国語総合の目標の実現を図ることができる教科書として適切であるととらえ、採択案としております。

他の教科、種目、一般図書についても、同様に一覧としてまとめております。平成26年度使用南高等学校用教科書の採択数は42種目となります。

南高等学校の採択案の後ろのほうにあります。18ページ、19ページをご覧ください。ここには南高等学校用教科書として採択するものの中で、特に、附属中学校において、南高等学校の学習内容を一部移行して実施する4種目の教科書を掲載しております。それぞれ、選定理由の中に、その旨が記載されております。この4種目の教科書につきましては、来年度の附属中学校3年生が有償にて購入し、そのまま、高校1年生で継続使用することとなります。

高等学校及び南高等学校教科書につきましては以上でございます。

今田委員長

所管課から説明が終わりました。ご意見、ご質問がありましたらどうぞ。

間野委員

インデックス3の36ページ、数学Ⅰについて先ほど説明をいただきました。戸塚高校定時制から始まりまして、横浜サイエンスフロンティア、そして桜丘、東、戸塚の3校が一緒だということで採択理由の説明がありました。その下の37ページ、金沢高校とみなと総合が同じ教科書なのですが、学校の使命や、あるい

は学力などに応じて選択されているとのことでした。私としては金沢高校とみなと総合高校の使命は大きく異なるように思うのですが、この同じ数学Ⅰのテキストを採用しているというのはどういう理由なのでしょう。

さらに言いますと、36 ページ、桜丘、東、戸塚と書いてありますが、南高校もこの数研の教科書を採択しているんですね。仮にそうであれば、金沢高校は数研の教科書を選ぶか、あるいはサイエンスフロンティアの啓林館を選んでもおかしくないと思うのですが、金沢高校とみなと総合が同じ、この数研の教科書を選んでいるというのはどんな理由なのですか。あるいは、みなと総合自身がその下の横浜総合とか、あるいは他の使命に近いような学校の教科書を選んでもいいはず。そうでなく、これが一緒になったというのはどんな理由によるものなのでしょう。

高橋高校教育  
課長

高校教育課の高橋でございます。今、ご指摘の数学Ⅰの教科書についてでございますが、まず数研の数Ⅰ310 につきまして桜丘、東、戸塚が選んでおります。そして、数研の数Ⅰ311 につきまして、金沢高校とみなと総合が選んでいるということでございます。

数研出版は、数学Ⅰにつきまして5種類の教科書を発行してございまして、この310 と 311 というのは、説明の仕方が少し違うのですけれども、グレード的には近いものがございます。

金沢高校につきましては、グレードを優先的にという考えもございまして、基礎的な内容が来て、解説してあることに着眼をして選んでいるというところでございます。

それから、南高校につきましては、附属中学校で現在、数研出版の「体系数学」というのを副教材として使用しております。それと同じ出版者である数研出版の数学Ⅰの教科書が適切であるという理由から、南高校は数研出版の数学Ⅰを使用しております。

確かに桜丘、金沢は進学指導重点校という使命を持ってございまして、みなと総合高校は、総合学科高校としてキャリア教育を推進するというところであります。一方で、みなと総合高校の生徒も、現状といたしましては、進学に対しての意欲の高いところでございまして、特に、基礎的な力を育成する数学Ⅰについては、そういったところで、同じ教科書を選定していくというところは一般的にありまして、その展開の仕方あるいは授業の仕方、それから、さらには教材として用いる問題集等との併用の授業展開によって、授業内容そのものの違いやいろいろな段取りによって同じ教科書でも学校にあった使用の仕方をしております。

間野委員

同じく高校の4 ページですけれども、国語の現代文Bについて、こちらが一番上の段ですが、三省堂の現代文Bの 304 ですけれども、ここも金沢高校と横浜商業高校と横浜総合高校が選択しています。ちなみに南高校はここには書かれていませんが、南高校は横浜サイエンスフロンティアと同じ筑摩、現代文Bの 315、こちらを選んでいるわけです。これもまた、大きく趣意が異なる学校が同じ教科書を選んでいるというのはどんな理由なのでしょう。

高橋高校教育  
課長

三省堂現代文B304「精選現代文B」についてご説明いたします。

まず、金沢高校と横浜商業高校は共通履修科目の教科書として選んでおりますので、こちらを勉強するのは、2年生全員が履修いたします。それに対して、横浜総合高校は選択科目としての教科書として選んでおりますので、進学等を希望する上で、その現代文Bを選択する生徒だけが対象となった教科書として、選ん

でいるというところが、まず違うところがございます。

また、この「精選現代文B」という教科書は非常に豊富な教材をとっておりまして、例えば、金沢高校は評論文等、文芸的な作品のバランスがとれていると書いてありますけれども、「精選現代文B」では、評論文が18、それから随想的な評論とか、茂木健一郎さんなども随想としてジャンルは使っておりますが、実質は評論文でございますので、評論文20本がとられております。しかも、大学受験で非常に頻出している作家等も大変多く取られている教科書でございます。

また一方で、小林秀雄であるとか、非常に評価が定着している作品も非常に数多く採られております。さらには、小説教材も、いわゆる定番教材と言われている「山月記」であったり、「こころ」であったり「舞姫」も収録されており、また、新しい作家の小説等も採られておりまして、非常に幅広い作品が収録されている教科書でございますので、その展開の仕方によって使命の実現に結びつけることが可能な教科書であると考えます。

間野委員

はい、分かりました。

今田委員長

よろしいですか。他にどなたかありますか。

奥山委員

高校の教科書につきましては、1年ごとの選定という形になると思うのですが、これは1年ごとに、場合によっては教科書会社を変えるという選択をする学校などもあるのでしょうか。そのあたりのこと、もし傾向があれば教えていただきたいのですが。

高橋高校教育  
課長

例えば、数学Ⅰのような教科書でございますと数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲという、学年を追って系統性のある場合が多くございますので、比較的、同じ出版社を継続的に利用する機会が多くございます。それに対して、例えば国語であるとか、英語の場合、改訂されたりしますと、収録されている作品ががらっと変わったりする場合がございます。そういう場合は改訂状況であったり、新しく発行された教科書、特に、今年度から、高校の場合は、全教科で新しい趣旨の指導要領による教科書が発行されており、新しく検定された教科書が、非常に多く発行されております。

そういった事情もありまして、新しく発行されたものや改訂されたもの、もしくは絶版になったものもございますので、そういった状況に応じて毎年、総合的な視点から検討を加え、使用する教科書を変えていくわけでございます。

奥山委員

ありがとうございます。

今田委員長

他にありませんか。よろしいですか。

西川委員

南高等学校の中学、附属中学校のほうが、高校の授業を一部導入するという形で、有償で教科書を配布するということになっているそうですが、そのときに、年度が変わったとき、高等学校になったときにその教科書を使うということでしょうか。

高橋高校教育  
課長

先ほどの吉原室長からの説明にもございましたように、今年の高校1年生で使っている教科書を附属中学校においても同様に使用していくわけですが、その附属中学校の3年生は来年度、平成27年度になりますと高校1年生になっていきま

す。その際、4種類の教科書については、同じ教科書を使っていくということになります。

西川委員

はい。分かりました。

今田委員長

よろしいでしょうか。いいですね。それでは、特にご質問がなければ、高等学校用教科書については、原案のとおり承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

今田委員長

それでは、高等学校用教科書について、原案のとおり採択いたします。  
次に、南高等学校用教科書について、南高等学校附属中学校使用教科書を含め、原案のとおり承認してよろしいでしょうか。

間野委員

南高等学校についてなんですけれども、附属中学校で使用する教科書が、南高校の教科書と同じのようです。古典と数学と英語、これを先取りするわけなんですけれども、来年の4月に入学してくる高校1年生と、それから、来年進級する中学3年生とが同じ教科書ということになります。その理由はなぜでしょうか。  
つまり、中学から一貫して上がってきているので、今の南高等学校とは違うカリキュラムで、違う水準の授業がなされるのかというふうに普通は想像するのですが、現行の南高校と同じ教科書そのまま使うというのは、何か理由があるんでしょうか。

高橋高校教育課長

現在の南高校においても、中高一貫教育校としての視点から、附属中学校の生徒を意識した授業を行っております。そして、使用教材も数学Ⅰ、数学A、それから国語総合については中学校からの続きとして古典編のみでございますけれども、古典編の第一学習社のものは入門編に一切傍注がないなど、水準の高い教科書を使う予定をしております。また、英語につきましても、そういうふうに高い教科書を使って展開しております。そういった視点から、附属中学校と高校が一貫した授業を展開するという視点でやっております。

間野委員

既に高校も先を見て授業を展開しているということですね。はい、分かりました。

今田委員長

改めて、南高等学校用教科書について、南高等学校附属中学校使用教科書を含め、原案のとおり承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

今田委員長

よろしいですか。それでは、南高等学校教科書について、原案のとおり採択します。  
教科書採択に係る審議資料の関係で、所管課から追加で何かありますか。

入内嶋指導部長

本日の教科書採択に係る審議資料につきましては、本日午後4時を目途に、市民情報センターのほうに配架いたします。  
以上でございます。



